

令和元年度第5回企画展 「収藏品－いいものちょっとだし」

川本 利恵^{*1}

はじめに

令和元(2019)年5月22日(木)から8月2日(金)の期間、企画展「収藏品－いいものちょっとだし」を開催した。

今回は8月までに開催されるオープンキャンパスのために、前回開催した「学生作品展」から、引き続き展示した作品とともに、以前から定期的に展示してほしいと博物館研究員の先生から要望のあった料理標本の他、収集して以来あまり公開していない資料の中から美的・技術的に素晴らしいものを選定してまとめることにした。

1. テーマの決定

例年、5月から8月にかけての企画は収蔵資料を中心に構成しているが、上記のように来校する高校生に見てもらえるよう、「学生作品展」の中から、延長してもよいとの了解を得たオペラ衣装と建築模型を引き続き展示することが決まった。それ以外で展示ケース1台から2台分に納まる程度の資料と点数を選定することにした。

収藏品の中からいいものを少しずつ展示するというので、「収藏品－いいものちょっとだし」とタイトルを付けた。

2. 展示構成

学生作品以外の展示資料は、料理標本を飯、汁、菜、菓子のくくりでそれぞれ数点ずつ、計12点、工芸品の中から、正倉院宝物のガラス器のレプリカとローマンガラスを含めて8点、明治から大正時代のカップなどのガラス器が12点、江戸時代後期から明治期の煙草入れや紙入れなどの袋物が14点、同時期の櫛、箆、簪が21点、和装資料の中から、新収蔵資料の打掛1点と開館当初の資料の女性礼服一式、足袋15点、クンストレース編みで制作されたレース絵4点を選んだ。

3. 印刷物

これまでA4判ポスター(写真1)を作成し、その裏面に資料リストを印刷していたが、今回は記入事項の字数が多く1ページに納まりきれなかったため、表裏ともに印刷したリストを作成した。ポスターは大判コピー機で印刷し、入口の扉やボードに貼り、A4・A3判で印刷したものを校内の掲示板に貼って学内者へ向けての広報とした。



写真1 ポスター

4. 展示作業

入口を入って窓側に向かう壁際にベニヤ板を組み立てた展示台を使って舞台を作り、そこにドレスを着せた1体のトルソーと髪飾り(写真2)を置いた。窓側に沿って3台のケースを並べ、それぞれに建築模型を(写真3)を飾った。そこから直角に2ケースを置き、本物のローマンガラスと正倉院宝物ガラス器の複製品(写真4)、大正時代のカフェで使用されたガラス器を飾った。またそこから直角に1ケースに打掛(写真5)

^{*}川本 利恵(かわもと りえ) 令和元年度生活文化博物館学芸員

を置き、続いて1ケースに礼服一式を置いた。続く2ケースに足袋の製作工程（写真6）と様々な足袋を入れた。次に展示室中央に覗いて見るタイプの4ケースで島をつくり、2ケースに料理標本（写真7）を並べ、それらの背中合わせに袋物（写真8）と櫛等を1ケースずつに並べた。そして廊下側の壁面にレース絵（写真9）を掛けた。



写真5 打掛



写真2 オペレッタ『こうもり』の衣装



写真6 足袋の製作工程



写真3 建築模型



写真7 料理標本の菜と菓子



写真4 ガラス器のレプリカ



写真8 袋物



写真9 クンストレース絵

おわりに

公開講座や授業で紹介した料理標本が実際に見られるようにしてほしいと数年前から博物館研究員の先生から希望されており、ようやく展示することができた。また、礼服についても日本文化に関連する資料を展示してほしいとの要望で礼服を展示したこともあり、大学の授業に活用してもらえる展覧会になった。

一つの大きなテーマを決めて校正する展示が多いが、眠っている資料を少しずつ紹介するこの企画は筆者自身がそういえばこんな資料もあったなと再認識し、楽しんだ展覧会でもあった。今回だけではなく、今後もまだ眠っている資料を出していける企画を検討したい。

令和元年度 収蔵品展 展示資料一覧

番号	タイトル	年代	地域・作者	寸法(cm)	番号	タイトル	年代	地域・作者	寸法(cm)
1	オペレッタ『こうもり』のロザリンデの衣裳	平成31年(2019)	平成30年度生活デザイン学科4年生 高岩(管理・修正) 鄭 宇凡(管理・修正) 3年生 栗林 南月(仮面・ブリーツ) 高頭 華菜絵(身頃・ドレープ) 宮本 楓恋(髪飾り)	141×98	23	広口氷カップ	大正時代	日本	8×径11
2	「Green Roof House」スケルトン・インフィルによるコーポラティブハウスの設計～	平成31年(2019)	平成30年度生活デザイン学科卒業生 中盛 琴星	80×111×11	24	高台付き広口小鉢	大正時代	日本	55×径10.5
3	「道路が繋ぐ人々と観光～道路休憩施設に寄与する建物計画～」	平成31年(2019)	平成30年度生活デザイン学科卒業生 渡邊 泉	50×80×5、92×92×13	25	打掛	昭和16年(1941)頃	日本、(寄贈者：加藤清香氏)	丈182.7× 衿65.5×丈108
4	「町田・再生～其の巻・貳・参～」	平成31年(2019)	平成30年度生活デザイン学科卒業生 中山 柚香 高橋 己世美 飯草 美瑛都	80×112×11	26	礼服	昭和元年(1926)	日本、(寄贈者：司法大臣原高道婦人)	丈168× 衿68×袖丈74
5	ローマンガラス	年代不明	出土地不明	15×径12	27	足袋	昭和54年(1979)	きねや足袋	女物、23 4枚こはぜ
6	ローマンガラス	年代不明	出土地不明	7×径7.5	28	足袋	昭和54年(1979)	きねや足袋	男物、25、 4枚こはぜ
7	紺瑠璃坏	平成2年(1990)	日本	11.5×径9	29	足袋	昭和54年(1979)	きねや足袋	女物、23 4枚こはぜ
8	白瑠璃水瓶(模造)	平成9年(1997)	日本	22.7×径15	30	足袋カバー	昭和54年(1979)	きねや足袋	女物、Mサイズ、 5枚こはぜ
9	紺瑠璃壺(模造)	平成9年(1997)	日本	9.5×径11.5	31	足袋(ニューストレッチ足袋)	昭和54年(1979)	きねや足袋	女物、Mサイズ、 5枚こはぜ
10	白瑠璃碗(模造)	平成2年(1990)	日本	8.5×径12	32	足袋(おしゃれ足袋)	昭和54年(1979)	きねや足袋	女物、Lサイズ、 4枚こはぜ
11	白瑠璃高坏(模造)	平成9年(1997)	日本	9×径29	33	足袋(ボンフィット足袋)	昭和54年(1979)	きねや足袋	女物、Lサイズ、 4枚こはぜ
12	緑瑠璃十二曲長坏(模造)	平成2年(1990)	日本	5×22.5×10.5	34	足袋	昭和54年(1979)	きねや足袋	男物、25、 4枚こはぜ
13	茶色プレス小皿	明治時代	日本	1.1×径6.5	35	足袋	昭和54年(1979)	きねや足袋	男物、25、 4枚こはぜ
14	立涌小鉢	明治時代	日本	4.5×径10	36	足袋カバー	昭和54年(1979)	きねや足袋	男物、25
15	立田川アイスベール	明治時代	日本	14×径14	37	足袋(外掛け)	昭和54年(1979)	きねや足袋	子供物、17、 4枚こはぜ
16	青色コンボート	大正～昭和時代	日本	16.5×径23	38	足袋	昭和54年(1979)	きねや足袋	子供物、16、 3枚こはぜ
17	デキャンタ	大正～昭和時代	日本	32×16×14	39	足袋用ヒール	昭和54年(1979)	きねや足袋	10.5×55×3
18	細形型吹き氷カップ	大正時代	日本	12×径8	40	こはぜ	昭和54年(1979)	きねや足袋	1.6×1.3
19	細形型立涌氷カップ	大正時代	日本	12×径8	41	足袋製作工程標本	昭和50年代	きねや足袋	女物、24
20	丸形氷カップ	大正時代	日本	8×径10	42	金糸地獅子に牡丹文様総刺繍 簞迫	江戸時代後期～明治期	日本	8×16.5×6
21	丸形氷カップ	大正時代	日本	8.5×径10	43	緋地松竹梅文様 刺繍入羅紗 大形紙入れ	江戸時代後期～明治期	日本	13×25×3
22	白色丸形氷カップ	大正時代	日本	8.5×径10	44	緑地花柄模様有職裂 煙草入れ	江戸時代後期～明治期	日本	2.5×20.5×0.5
					45	銀襷に紺格子縞 竹葉文様綴織 紙入れ	江戸時代後期～明治期	日本	7×10.3×2
					46	紫地格子縞 鳳凰に牡丹文様綴織 紙入れ	江戸時代後期～明治期	日本	10.3×19×3
					47	紫地格子縞 牡丹文様綴織 煙草入れ・刻煙草入れ	江戸時代後期～明治期	日本	3×21×1 +6.8×11×1

番号	タイトル	年代	地域・作者	寸法(cm)	番号	タイトル	年代	地域・作者	寸法(cm)
48	金唐草 エンジェル文様	江戸時代 後期～ 明治期	日本	10×17×1.5	68	象牙製桐唐草 文様金蒔絵 櫛	江戸時代 後期～ 明治期	日本	4×8.5×0.7
49	黒地羅紗 紙入れ	江戸時代 後期～ 明治期	日本	10×21×2	69	象牙製桐唐草 文様金蒔絵 筭	江戸時代 後期～ 明治期	日本	1.8×17×0.9
50	緋地飛鶴に 桜藤花文様 煙管入れ ・刻煙草入れ	江戸時代 後期～ 明治期	日本	5×21×1 ・7×10.5×1.5	70	菊文様金蒔絵 筭	江戸時代 後期～ 明治期	日本	1.8×16.3×1.3
51	鼠地山水風景 切り付羅紗 紙入れ	江戸時代 後期～ 明治期	日本	8×12.5×3	71	黄楊櫛	江戸時代 後期～ 明治期	日本	3.8×8.7×1
52	紫地竹に雀文様 綴織 紙入れ	江戸時代 後期～ 明治期	日本	2.5×20.5×0.5	72	べっ甲製耳掻き 玉簪	江戸時代 後期～ 明治期	日本	2×19×2
53	白紫斜結竹に 雀文様綴織 煙管入れ ・刻煙草入れ	江戸時代 後期～ 明治期	日本	3.3×21×1 ・6.5×11×2	73	銀製瑞瑠真珠 トンボ形 簪	江戸時代 後期～ 明治期	日本	7.8×14.2×0.5
54	金襴地笹の葉 文様綴織 紙入れ	江戸時代 後期～ 明治期	日本	6.7×10.5×2	74	銀製蒔絵耳掻き 赤玉簪	江戸時代 後期～ 明治期	日本	1.3×21.5×1.3
55	緋地有職文様 紙入れ	江戸時代 後期～ 明治期	日本	2.5×20.5×0.5	75	銀製花柄平打ち 簪	江戸時代 後期～ 明治期	日本	4.2×17.5×0.1
56	べっ甲製竹文様 真珠入り 櫛	江戸時代 後期～ 明治期	日本	3.5×8.5×0.7	76	銀製桐文様 びらびら付き 簪	江戸時代 後期～ 明治期	日本	4.2×18×0.1
57	べっ甲製黒まだら 紅葉文様 櫛	江戸時代 後期～ 明治期	日本	2.2×10.5×0.2	77	鯛の香物酢	平成23年 (2011)	日本・『鯛百珍料 理秘密箱』(出典)	4.8×21×21
58	べっ甲製夕立に 葉平文様蒔絵 櫛	江戸時代 後期～ 明治期	日本	3.5×11×0.7	78	雪花菜飯	平成22年 (2010)	日本・『名飯部類』 (出典)	径13×6.9
59	木製鳳凰文様 艶消し蒔絵 櫛	江戸時代 後期～ 明治期	日本	4×8.5×0.6	79	豆腐かゆ	平成24年 (2012)	日本・『豆腐百珍』 (出典)	径13.2×10.8
60	べっ甲製無地 櫛	江戸時代 後期～ 明治期	日本	4×8.7×0.7	80	墨染豆腐	平成24年 (2012)	日本・『豆腐百珍』 (出典)	径10.9×7
61	べっ甲製牡丹 文様金蒔絵 櫛	江戸時代 後期～ 明治期	日本	2.8×10×0.5	81	おぼろ大根葛かけ	平成23年 (2011)	日本・『大根一式 料理秘密箱』(出典)	6.3×11.7×11.7
62	べっ甲製菊藤 文様金蒔絵 櫛	江戸時代 後期～ 明治期	日本	4.5×9.5×0.7	82	磯菜卵	平成23年 (2011)	日本・『萬宝料理 秘密箱』(出典)	6×10.8×10.8
63	木製牡丹唐文様 金糸蒔絵 櫛	江戸時代 後期～ 明治期	日本	3.5×8.5×0.7	83	かすてらいも	平成23年 (2011)	日本・『甘藷百珍』 (出典)	2.5×13.3×13.3
64	べっ甲製黒 まだら文様 櫛	江戸時代 後期～ 明治期	日本	2.5×11×0.4	84	ふのやき	平成24年 (2012)	日本・『古今名物御前 菓子秘伝抄』(出典)	2.3×16.2×16.2
65	べっ甲製扇形 山水菊文様 蒔絵 櫛	江戸時代 後期～ 明治期	日本	6×10.5×0.5	85	柿衣	平成24年 (2012)	日本・『素人庵丁 (三篇)』(出典)	径14×5.8
66	鶴に唐草文様蒔絵 巻物形 櫛	江戸時代 後期～ 明治期	日本	2.5×13.7×0.5	86	ごぼう餅	平成23年 (2011)	日本・『料理物語』 (出典)	2×14.7×14.7
67	荒磯文様真珠入り 金蒔絵 筭	江戸時代 後期～ 明治期	日本	3.5×8.5×1	87	けんびん	平成23年 (2011)	日本・『古今名物御前 菓子秘伝抄』(出典)	1.6×14.8×14.8
					88	こおり豆腐	平成23年 (2011)	日本・『豆腐百珍』 (出典)	2.4×15.5×16
					89	「見返り美人」	平成9年 (1997)	日本、石川なごみ	58×42
					90	「ぶどう祭り」	平成3年 (1991)	日本、石川なごみ	54×60
					91	「フラメンコ」	昭和63年 (1988)	日本、石川なごみ	41×33.5
					92	「笛を吹く乙女」	平成8年 (1996)	日本、石川なごみ	59×44